

三段峡ボランティアを通して

<はじめに>

今回私は大学の環境の授業で自然学校の取り組みについて学び興味を持ったので、自然を学び楽しむプログラムを行っている三段峡の自然塾に携わるボランティアに参加した。三段峡の自然塾を開いているさんけん（NPO法人三段峡一太田川流域研究会）は、子供同士の学びや教え合いが、自分で気がつき前に進もうとする子供を育てることを目的としたものであり、ボランティアを通して、三段峡という自然環境の整った場所で未来の地球の自然環境を担うリーダーとなる子供のサポートができたことを誇らしく思った。また子供だけでなく年齢層が上の方々にも、三段峡の魅力を感じてもらうためのツアーを施したり、ツアーのプログラムを考えたりするなど充実したボランティアを送ることができた。

<7月13日ボランティア>

この日のボランティアは、午前は三段峡正面口から赤滝までのコースを散策しながら、三段峡の魅力を学び、午後は午前で散策したコースで、40代～60代ほどの年齢の数十名のツアー団体にツアーをし、そのサポートと案内をした。ボランティアをする身でありながら私自身三段峡のことを全く知らず、三段峡が文化財保護法に基づき、特別名勝に指定された世界に誇れる重要文化財であることに驚いた。そして三段峡を散策しながらわかったことは、三段峡の魅力は五感を使って楽しむことができるということだ。三段峡の壮大な自然の景色を見て楽しむ視覚、滝・川の流水音や生き物の鳴き声、狼石から聞こえる音を聞いて癒される聴覚、土の匂いや木や葉から香るハーブのような匂いを感じる嗅覚、富士山の水より軟らかい硬度9の三段峡の水を飲んで特別を味わう味覚、植物や冷たい水、魚や虫などの生き物に直接触れて体験する触覚、これら全てを同時に感じることは他にはない特別なこの魅力である。また、植物や動物も珍しい生き物が多く絶滅危惧種に指定されたものもあり、生物多様性に富んだ場所であることが分かった。このような場所でツアーの方々にも充実したツアーだったと感じてもらうために、しっかりガイドのサポートをするよう心掛けた。途中で赤滝の説明を私達がツアーの方々にする機会を設けてもらったが、時間がなくてできなかった。しかし、お客さんの安全管理として足元に注意するよう声掛けし、一緒にお話することができ、誰も怪我無く最後はお客さんの楽しそうな笑顔が見られたので充実したボランティアとなった。

<8月3日ボランティア>

この日のボランティアは、三段峡ツアーの一環である沢登りを体験した。ボランティアらしいことはしていないが、ツアーを受ける側の体験から感じたことや今後大切だと思うことを、次にツアーを提供する側になった時に繋げて活かせるようにするという意識をもつ

ことができたのでよかった。長淵から姉妹滝まで沢登りをする中で、散策とは違った楽しさを感じると共により危険でもあることも学んだ。初めて沢登りを経験してみて、思ったより足場が悪く下が見えないので、不注意でこけたり足が石の間に挟まったりして前に進むのが簡単ではなかった。また、泳いでいる時に川の流れに体が持っていかれて誤った方向に行ったりした。しかしそういう時は安全ロープで繋げるなど工夫して対処もできるし、無理せず安全なコースを通ることもできたので安心できた。姉妹滝を前にした時は上から見る滝と下から見る滝とで全く景色が違って、冷たい水と激しい流れを直接感じ、目の前に滝水が降ってくるダイナミックな迫力に圧巻した。これを体験することができると自然の素晴らしさをさらに実感すると思った。しかし沢登りは危険であるので小学生以下は難しく、大人向けツアーであると考えた。沢登りを経験して沢山の楽しさと危険性を感じることができた。

< 8月4日ボランティア >

この日のボランティアは、さんけんと無印良品のコラボ企画「自然あそび縁」のお手伝いとして、小学生の親子が川遊びをするイベントのサポートをした。小さい子供が多く、ライフジャケットを身につけさせる際は、きちんと体にフィットするように装着し怪我をさせないように入水前に安全確認ができた。子供たちが素手で川魚を掴み取りするイベントでは、子供たちが川魚を自分でとることの楽しさと達成感を味わえるので良いと思った。怖くて中々魚を取ることができない子供がいたが、時間をかけてでも自分で手づかみ体験させ、その子が自分でできるまでサポートした。怖さを克服し手づかみできた時の子供の満足そうな顔と、親が子供の成長をみられて嬉しそうな顔が私の目に焼き付いた。子供の出来るを拓げるさんけんの取り組みに素晴らしいと感じた。また、その後の自分で取った魚を今度は自分で捌いて食べる時には、子供たちが一生懸命自分で捌いていて感動した。私が幼い時に経験しなかったことなので、小さいうちに将来に役立つ魚捌きを経験できる環境があるのは良いと思った。子どもたちの能力を伸ばし、成長を感じられる場に立ち合いできて光栄だった。そして川での安全講習ではみんなの前で川で流された時の対処を実践し、子供にも親にも安全管理の仕方を教えて理解してもらうことができた。

< 8月6日ボランティア >

この日のボランティアは、高校生と川遊びツアー造成をした。実際に川に入って小学生でも体験できるコースを考えたり、途中で何をしたら小学生によろこんでもらえるかなどを話し合いで決めたりした。例えば希少なオオサンショウウオの探索をしたり、川魚を見つけて学びあいの場を設けたりして、小学生に自然のふれあいを、計画した時間内で体験させるために調整する作業は特に大変だと思った。しかし小学生のために様々な楽しめる企画を考えている時の高校生はみんな生き生きとっていて尊敬した。小学生のことを考慮して自分からプログラム作成に意見を出すことができ、一緒にプログラム作成に参加できたことを嬉しく思った。

<最後に>

四日間のボランティアを通して、まずは三段峡の魅力を十分に学び、三段峡という場所が好きになった。私は赤滝までしか行くことができなかったけれど、そこまでで沢山楽しみ五感を使って心を潤すことができたので、赤滝よりも奥でさらに自然を感じるができると思うと、三段峡は1日の観光で足りない程の魅力が詰まっているように思う。このような場所は子供の冒険心と感性を育むのに打って付けである。私が今回のボランティアで最も魅了されたことは、小学生の自然のふれあいをより良いものとするために、大人だけでなく高校生が関与し、またそれを私達大学生もサポートしている状況下である。若い世代が更に若い世代に自然教育を施しているという環境が感慨深かった。このような取り組みがもっと増えていくと良いと思った。三段峡は今若い子にも人気だし、外国人観光客も増えているように思うので、どの人にも楽しんでいただけるように更なる発展と工夫をし、たくさんの人に三段峡を知ってもらい盛り上げていけたら良いと感じた。本当に充実したボランティアを送ることができた。